

児童が英語を聞くこと・話すことのできるようになる外国語活動の指導方法
～意図的・計画的・継続的な常時学習活動「コミュニケーション・タイム」の指導を通して～
宮崎県延岡市立緑ヶ丘小学校 教諭 津曲 康夫

I 主題設定の理由

次期学習指導要領改訂に伴い、平成27年に中央教育審議会教育課程企画特別部会から論点整理が公表された。外国語教育を含む、それぞれの教科等において育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力等」・「学びに向かう力・人間性等」）を整理することが重要と示されている。外国語教育においては、以下のように示されている。

「外国語教育においては、特に、他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から、～中略～外国語を聞いたり、読んだりすることを通じて様々な事象等をとらえ、多様な人との対話の中で、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現して伝え合うことで思考していくことが重要である。～以下省略～」*¹⁾（教育課程部会 2016『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて1』一部引用）以上のような審議を受け、次期学習指導要領では、総則において「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」*²⁾（小学校次期学習指導要領P17-18）が規定されている。また、次期学習指導要領においては、小学校高学年における外国語教育の教科化が決まり、「聞くこと」「話すこと」においては、「できる」まで求められることとなる。*³⁾（小学校次期学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 P76-82）

さらに、宮崎県の教育基本方針を示した「第二次宮崎県教育振興基本計画」の中においても、国際化に対応した教育の推進の一つとして、コミュニケーション能力の向上が重点施策の一つとして掲げられている。即ち英語という言語を中心として、一連の学習指導を経て思考を深め、児童が本当に伝えたい思いや考えを表現する学習活動などを通じて、国際社会でも通用する実用的なコミュニケーション能力の育成を進めていく必要がある。

そこで、「児童が外国語（以下英語と表記する）を聞いたり、話したりすることができるようにするためには、どのような指導方法で行えば効果的かつ効率的に指導を行うことができるのだろうか。」という課題を立て、2020年から全面実施されることとなる次期学習指導要領も視野に入れた実践や検証をする必要があると考えた。また、本課題は、これまでの13年間の教職を経て、外国語教育に積極的に関わってきた中で、往年抱え続けてきた課題とも共通している。

以上の理由から、これらの課題を踏まえ、平成29年度（平成29年4月から平成30年3月まで）に、小学校第6学年において本主題を設定し、以下の仮説の検証を進めることとした。

II 研究の仮説

1日約5分間の常時学習活動「コミュニケーション・タイム」を隙間時間に設け、メリーゴーランド（回転木馬）型対話練習という対話の指導方法を活用しながら、慣れ親しませたい英語表現を児童に意図的・計画的・継続的に指導していくことによって、児童は英語を日常的に聞いたり話したりするようになり、聞くこと・話すことのできるようになるであろう。

III 研究の内容

- 児童が英語を聞くこと・話すことのできる外国語活動の指導方法
 - 1 「常時学習活動」の定義と意義
 - 2 「コミュニケーション・タイム」（「メリーゴーランド（回転木馬）型対話練習」）のねらいと指導方法
 - 3 「コミュニケーション・タイム」の実践

IV 研究の実際

○ 児童が英語を聞くこと・話すことのできる外国語活動の指導方法

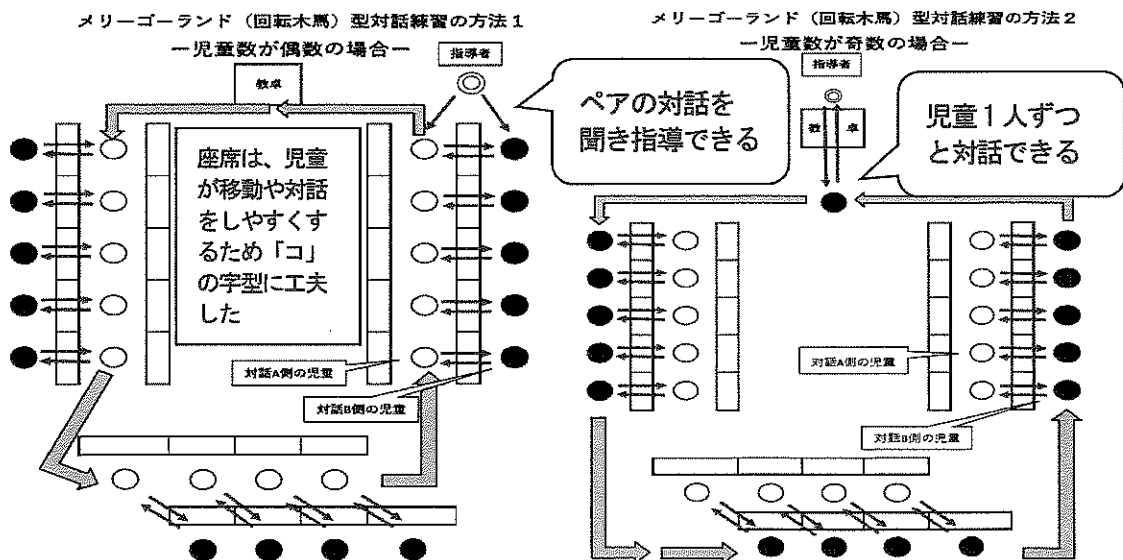
(1) 「常時学習活動」の定義と意義

「週1回の外国語活動の授業以外で、児童の毎日の学校生活の中に組み込んで行う学習活動」と定義した。本研究では、「コミュニケーション・タイム」にあたる。本研究における「常時学習活動」の意義は、次の2つである。1つは、指導の継続性を確保できるという点にある。もう1つは、児童全員が同時に対話練習を行うことができるという点にある。質の高い指導方法を自分なりに工夫・改善することにより、英語を聞いたり話したりできる児童の育成を効果的かつ効率的に行うことができると考える。

(2) 「コミュニケーション・タイム」のねらいと指導方法

指導方法として、教師と児童、児童同士が英語を使ってお互いの調子や体調等を確認合いながら、外国語活動の学習で学習した既習表現を用いてコミュニケーション能力の素地を養っていく「メリーゴーランド（回転木馬）型対話練習」という方法を活用した。「メリーゴーランド（回転木馬）型対話練習」とは、児童が1人ずつ入れ代わりながらペアを作り、「対話」の型をもとに英語を使ってコミュニケーションを図る練習を繰り返す練習方法である。^{※4)}（村端五郎著 2017『英語で対話できる児童を育てるには—英語での対話はどのように展開するのかの原点にかえって—』）

そこで、朝の健康観察後の隙間時間を活用し、「コミュニケーション・タイム」という時間を新たに設けた。村端氏の対話練習方法を自分なりに応用し、毎朝5分間程度取り組むことができるように、学級の独自活動の一つとして組み込んで実施した。また、以下の図の通り、児童全員が同時に英語を聞いたり話したりすることのできるシステムを構築して実践を進めた。さらに、児童数によって指導者が意図的に個別指導できる2種類の学習システムを考案し、仮説の検証をしながら実践した。



【本研究で考案した「メリーゴーランド（回転木馬）型対話練習」の指導方法のイメージ図】

(3) 「コミュニケーション・タイム」の実践

月・水・金曜日は、○の座席の児童（外側）が反時計回りで回転しながら対話練習を行った。火・木曜日は、●の児童（内側）の座席の児童が回転することで、対話の開始者を

宮崎県延岡市立緑ヶ丘小学校 教諭 津曲 康夫

研究主題

児童が英語を聞くこと・話すことのできるようになる外国語の指導方法
～意図的・計画的・継続的な常時学習活動「コミュニケーション・タイム」の指導を通して～

添付資料1「児童が英語を聞くこと・話すことができるようになったことが分かる振り返りカードの記述より」

いろいろな国を
英語で話した。シガ
ールに行きたいと思
った。

自分の行きたい
国名を英語で聞
き、話すことが
できるようにな
ったことが分
かる。

英語やシガールを使って自分

シガールに
行きたいと書いていた事は
できました。シ
ガールの書いていたシガール
に行きたくなりました。

英語を使い、自
分の行きたい国
を話すことが
できるようにな
ったことが分
かる。

の行きたい国を伝えたい

事ができました。

友達自分の行きたい国が
伝わった時、とても嬉
しかったです。これからもみんな
が分かるように話したいです。

児童同士で英語
を使い、しっか
りと聞くことが
できるようにな
っていることが
分かる。

いろいろな人の調べた

行きたい国を知れてよ

かったです。今日は、
スマイルが一番で
きました。

論文でも記載
した「コミュニ
ケーション5つ
のポイント」を
意識しながら、
話したり聞いたり
できていること
が分かる。

（スマイル）が
一番好きです。

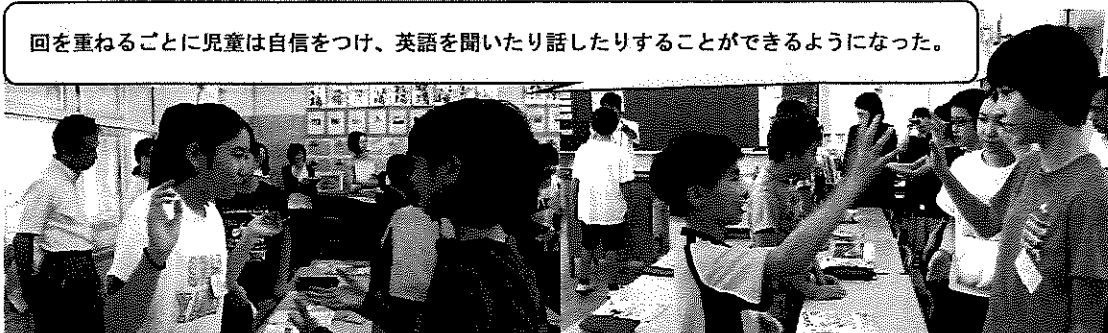
とても楽しかったです。コミュ

ニケーションが大好きになりました。

最終的には英語で話す経験を積み重ねたこと
により、コミュニケーションをとる楽しさや喜びを
感じ、能力の高まりを実感するようになった。

添付資料2「児童が英語を聞くこと・話すことができるようになるために、対話練習を行っている場面の写真資料『コミュニケーション・タイム』の様子より」

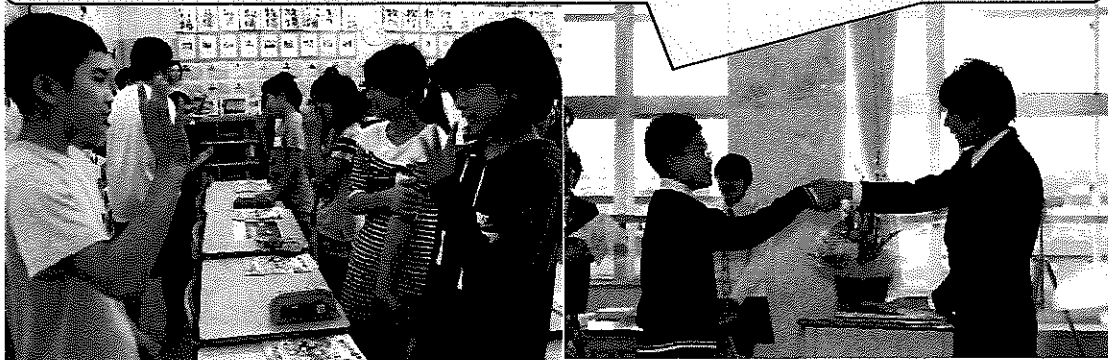
回を重ねるごとに児童は自信をつけ、英語を聞いたり話したりすることができるようになった。



理論をご教授いただいた村端氏に対しても、児童が進んで英語で話しかける姿も見ることができ、変容が感じられた。(平成29年9月22日 「コミュニケーション・タイム」実践の中間発表会の様子より)



平成30年3月23日、児童が卒業する日の朝。「先生、最後の日の朝もコミュニケーション・タイムをしたいです。」という子供達の思いを受け、最終日まで英語でコミュニケーションをとり続ける実践を行った。



児童は涙を流しながらも笑顔で、小学校生活最後の「コミュニケーション・タイム」で英語を流暢に使い、友達への思いや自らの将来の夢などを聞いたり話したりすることができた。忘れられない一日となった。

入れ代えるなど、自分なりに工夫・改善を加えながら実践を進めた。また、児童数が奇数の場合や複数の指導者がいる場合、◎の指導者は、目の前のペアの児童の対話をよく聞くようにした。児童同士が英語を使って上手にコミュニケーションをとっている場合は具体的に褒めたり、必要に応じて英語表現を指導したりすることで、児童に無理なく意図的に個別に指導することが可能となった。右の表の通り、毎朝継続的に練習できるように計画し、実践した。さらに、児童に対話をさせる上で、対話の3つの段階を重点的に指導するように工夫した。「オープニング（「対話の開始）」「リンキング（対話の中心）」「クロージング（「対話の終了）」の3つの対話の段階を設定し、対話がより自然に進むようにした。*5) (文部科学省 2017 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック P84)

実施日	朝の健康観察後の時間(8:05-8:10)	「コミュニケーション・タイム」(対話練習)
2017/8/29		「コミュニケーション5つのポイント」の説明
2017/8/30	回転木馬型	対話1練習1
2017/8/31	回転木馬型	対話1練習2
2017/9/1	回転木馬型	対話1練習3
2017/9/2	回転木馬型	対話1練習4
2017/9/4	回転木馬型	対話1練習5
2017/9/5	回転木馬型	対話1練習6
2017/9/6	回転木馬型	対話1練習7
2017/9/7	回転木馬型	対話1練習8
2017/9/8	回転木馬型	対話1練習9
2017/9/11	回転木馬型	対話1練習10
2017/9/12	回転木馬型	対話1練習11
2017/9/13	回転木馬型	対話1練習12
2017/9/14	回転木馬型	対話1練習13
2017/9/15	回転木馬型	対話1練習14
2017/9/19	回転木馬型	対話1練習15
2017/9/20	回転木馬型	対話1練習16

2018/1/5	回転木馬型	対話1練習79
2018/1/6	回転木馬型	対話1練習80
2018/1/7	回転木馬型	対話1練習81
2018/1/8	回転木馬型	対話1練習82

指導の継続性(三学期最終日まで実践)

【「コミュニケーション・タイム」の計画】

その際、以下のような「対話」の3つの段階と英語での「対話」の表現方法を教え、少しずつ英語の量を増やしていきながら英語を聞くこと・話すことのできる児童の育成に向けて実践を進めた。また、児童が外国語活動の学習で学んだ英語表現を「対話」の中心「リンキング」に入れ、対話の量と質を高めるように工夫した。このように自分なりに工夫を加え、改善を図りながら実践を進めたことで、児童の対話の量がさらに増え、質も向上した。以上のような実践を意図的・計画的・継続的に進めるとともに、児童に英語で対話をさせる際、下記の資料のように「コミュニケーション5つのポイント」を確認し、児童に意識させながら実践した。そのことにより、相手の発話をしっかりと聞いた上で話そうとするコミュニケーション能力の素地が着実に養われたと考える。

① 「オープニング（「対話」の開始）」

A: Hello, ○○(「対話」の相手の名前).
(My name is ○○. 初めて「対話」をする相手の場合のみ入れる)
How are you?

B: I' m fine / good / not so good / tired etc... , thank you, and you?

A: I' m ○○, thank you.

② 「リンキング（「対話」の中心）」

A: Where do you want to go?

B: I want to go to ○○. (国名)

A: Why?

B: Because I want to see ●●.

(名所・名物・有名な建築物等)

A: Oh! Nice! Thank you.

③ 「クロージング（「対話」の終了）」

B: You are welcome.

A: See you soon. Bye!

B: See you soon!

① A: Hello, ○
○.
How are you?

② B: I' m
good,
thank you!
And you?

③ A: I' m fine, thank

【「オープニング（「対話」の開始）」の様子】

「コミュニケーション5つのポイント」	
① Eye contact	相手の目を見て
② Gesture	身振り手振りをつけて
③ Clear voice	はっきりとした声で
④ Smile	笑顔を大切に

【児童に意識させた「コミュニケーション5つのポイント」】

V 研究の結果とその考察

以上のような「対話」の型をもとに、英語の対話練習を約7ヶ月間、毎日計画的・継続的に行なった。その後、児童にアンケートを実施したところ、以下のような結果となった。

「コミュニケーション・タイム」実践における結果

児童への質問内容

(児童への質問は6段階評価で実施)

「朝の健康観察の時間後に、英語を使って、メリーゴーランド型で対話練習をしてきました。あなたは、練習を通して英語を聞いたり話したりすることができるようになりましたか。」

児童が選択した項目	9月	3月	変容
とてもできるようになった	11%	74%	63%増
できるようになった	13%	19%	学級全児童が取組の効果を実感できた
どちらかというところできるようになった	25%	7%	
どちらかというところできるようにはなっていない	27%	0%	取組の効果を感じていない児童が0名となった
できるようにはなっていない	16%	0%	
全くできるようにはなっていない	8%	0%	

本活動により、74%の児童が「英語を聞いたり話したりすることがとてもできるようになった」と回答した。また、学級内全員の児童が「コミュニケーション・タイム」での「対話練習」により、「英語を聞いたり話したりすることができるようになった」と肯定的な回答に変わった点は本研究の有効性を証明している。毎日5分程度の実践ではあるが、意図的・計画的・継続的に取り組んできたことが今回の児童の意識の変容につながったと考察できる。本実践により、児童が「コミュニケーション5つのポイント」を大切にしながら、自信をもって英語やジェスチャーを使って聞いたり話したりすることができるようになり、児童自身はもちろんのこと、共に実践を行ってきた指導者自身も変容を大いに実感することができた。

VI 研究の成果と今後の課題 (○成果、●課題)

- 1日約5分間の常時学習活動「コミュニケーション・タイム」を隙間時間に設け、メリーゴーランド(回転木馬)型対話練習という方法を活用しながら、慣れ親しませたい英語表現を児童に意図的・計画的・継続的に指導していくことによって、全ての児童は「英語を日常的に聞いたり話したりすることができるようになった」と実感できた。特に、74%の児童は、「英語を聞くこと・話すことがとてもできるようになった」と実感している。これは、指導の継続性を確保しながら、児童全員が同時に対話練習を行うことができるという質の高い指導方法を自分なりに工夫・改善しながら実践を続けてきたことで、児童の意識の大幅な肯定的変容につながられたのではないかと考える。以上の点から考えると、本研究の有効性が導き出されたと言える。
- 改善点としては、時と場合により「対話」の型が異なるため、初めて出会う人との「対話」の始め方などについても応用できるように指導を工夫していく必要があることが実践を通して分かった。このことを踏まえ、児童がより自然な形で話したり聞いたりすることができるようにするためには、「対話」の型の種類を増やしていきながら、児童が使える英語表現を計画的に加えていくということが必要となる。さらに工夫・改善を加えていきながら今後も本研究を進めていく。

引用文献・参考文献

- ※1) 教育課程部会 2016『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて1』
- ※2) 文部科学省 2017 小学校次期学習指導要領
- ※3) 文部科学省 2017 小学校次期学習指導要領解説 外国語活動・外国語編
- ※4) 村端五郎著 2017『英語で対話できる児童を育てるには—英語での対話はどのように展開するのかの原点にかえて—』
- ※5) 文部科学省 2017 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック